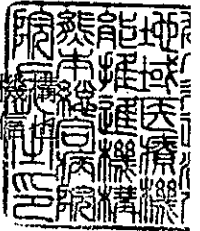


熊総発事第1007001号
令和6年10月7日

熊本県知事 木村 敬 様

開設者氏名 独立行政法人地域医療機能推進機構
熊本総合病院 病院長 島田 信也



熊本病院の地域医療支援病院の業務報告について

このことについて、医療法第12条の2の規定に基づき、令和5年度の業務報告書を提出します。

記

1-1 開設者の住所及び氏名

住所	〒108-0074 東京都港区高輪3丁目22番12号
氏名	独立行政法人地域医療機能推進機構

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

1-2 病院の名称

独立行政法人地域医療機能推進機構 熊本総合病院

1-3 病院の所在地

〒866-8660
熊本県八代市通町10番10号
電話 (0965) 32 - 7111

1-4 病床数

精神病床	感染症病床	結核病床	療養病床	一般病床	合計
床	4床	床	床	416床	420床



1 - 5 施設の構造設備

施設名	設備の概要
集中治療室	(主な設備) 重症個室、感染症対応用陰圧個室 病床数 6床
化学検査室	(主な設備) 尿中有形成分分析装置、尿分析装置、自動生化学分析装置、免疫分析装置、血液凝固測定装置、血糖測定装置、ヘモグロビンA1C分析装置、輸血検査装置、血液ガス分析装置、自動血球分析装置
細菌検査室	(主な設備) 安全キャビネット、ふ卵器、微生物固定感受性分析装置、高温高压蒸気滅菌器、乾熱恒温器、血液培養装置
病理検査室	(主な設備) ホルマリン固定槽、FA対策撮影装置、自動包埋装置、写真顕微鏡、凍結標本作成装置
病理解剖室	(主な設備) バイオハザード解剖システム、解剖機器セット、写真撮影装置
研究室	(主な設備) 医局、パソコン (院内ネットワークシステム)
大ホール	室数 1 室 収容定員 300 人
大会議室	室数 1 室 収容定員 100 人
中会議室	室数 2 室 収容定員 40 人
小会議室	室数 4 室 収容定員 20 人
職員研修室	室数 1 室 収容定員 50 人
図書室	室数 1 室 蔵書数 2,000 冊程度
救急用又は患者搬送用自動車	保有台数 2台 (救急車1台、患者搬送用自動車1台)
医薬品情報管理室	[専用室] 床面積 12.55 m ²

(注) 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器等を記入すること。

2 紹介患者に対する医療提供及び他の病院又は診療所に対する患者紹介の実績

2-1 地域医療支援病院紹介率及び地域医療支援病院逆紹介率

地域医療支援病院 紹介率	86.2%	算定 期間	令和 5年 4月 1日～ 令和 6年 3月 31
地域医療支援病院 逆紹介率	97.0%		
算出 根拠	A：紹介患者の数		6,422人
	B：初診患者の数		7,446人
	C：逆紹介患者の数		7,226人

(注) 1 「地域医療支援病院紹介率」欄は、AをBで除した数に100を乗じて、小数点以下第1位まで記入すること。

(注) 2 「地域医療支援病院逆紹介率」欄は、CをBで除した数に100を乗じて、小数点以下第1位まで記入すること。

(注) 3 それぞれの患者数については、前年度の延べ数を記入すること。

3 共同利用の実績

3-1 共同利用の実績

別紙①

常時共同利用可能な病床数

14 床

3-2 共同利用の範囲等

- ① 建物
一部
- ② 設備、器械又は器具
設備の一部
(医療機器については、別紙②参照)
- ③ その他

3-3 共同利用の体制

ア 共同利用に関する規定の有無 ☒ 有 ・ 無

イ 利用医師等登録制度の担当者 氏 名： 塚本 五月
職 種： 看護師

(注) 共同利用に関する規定が有る場合には、当該規定の写しを添付すること。
※別紙③

3-4 登録医療機関の名簿

医療機関名	開設者名	住所	主たる診療科名	地域医療支援病院開設者との経営上の関係の有無
(別紙④) 登録医名簿				

(注) 当該病院と同一の二次医療圏に所在する医療機関のみ記入すること。

4 救急医療の提供の実績

4-1 重症救急患者の受入れに対応できる医療従事者の確保状況

No.	職種	氏 名	勤務の態様		勤務時間	備 考
1	医師	吉松 眞一	常勤 非常勤	専従 非専従	8:30~17:00	消化器内科
2	医師	田中 秀幸	常勤 非常勤	専従 非専従	8:30~17:00	呼吸器内科
3	医師	江藤 健一郎	常勤 非常勤	専従 非専従	8:30~17:00	血液内科
4	医師	井上 秀樹	常勤 非常勤	専従 非専従	8:30~17:00	腎臓内科
5	医師	本島 寛之	常勤 非常勤	専従 非専従	8:30~17:00	糖尿病内分 泌内科
6	医師	堀野 敬	常勤 非常勤	専従 非専従	8:30~17:00	外科
7	医師	菊川 憲志	常勤 非常勤	専従 非専従	8:30~17:00	整形外科
8	医師	小出 俊一	常勤 非常勤	専従 非専従	8:30~17:00	循環器内科
9	医師	神崎 順徳	常勤 非常勤	専従 非専従	8:30~17:00	耳鼻咽喉 科・頭頸部
10	医師	古賀 一成	常勤 非常勤	専従 非専従	8:30~17:00	脳神経外科
11	医師	川上 茂生	常勤 非常勤	専従 非専従	8:30~17:00	泌尿器科
12	医師	東矢 俊光	常勤 非常勤	専従 非専従	8:30~17:00	婦人科
13	医師	川畑 和幸	常勤 非常勤	専従 非専従	8:30~17:00	眼科
14	医師	中曾根 豊	常勤 非常勤	専従 非専従	8:30~17:00	放射線科
15	医師	市村 知佳	常勤 非常勤	専従 非専従	8:30~17:00	皮膚科
16	医師	谷本 宏成	常勤 非常勤	専従 非専従	8:30~17:00	麻酔科
17	看護師	前田 稔	常勤 非常勤	専従 非専従	8:30~17:00	救急救命部

18	看護師	杉村 美樹	常勤 非常勤	専従 非専従	8:30~17:00	救急救命部
19	看護師	海崎 美里	常勤 非常勤	専従 非専従	8:30~17:00	救急救命部
20	看護師	高木 一寿	常勤 非常勤	専従 非専従	8:30~17:00	救急救命部
21	看護師	沖元 善裕	常勤 非常勤	専従 非専従	8:30~17:00	救急救命部
22	看護師	馬淵 香菜	常勤 非常勤	専従 非専従	8:30~17:00	救急救命部
23	看護師	松本 衿香	常勤 非常勤	専従 非専従	8:30~17:00	救急救命部
24	看護師	早川 遥	常勤 非常勤	専従 非専従	8:30~17:00	救急救命部
25	看護師	井川 美江	常勤 非常勤	専従 非専従	8:30~17:00	ICU
26	看護師	宮川 三希子	常勤 非常勤	専従 非専従	8:30~17:00	ICU

4-2 重症救急患者のための病床の確保状況

優先的に使用できる病床	18 床
専用病床	6 床

(注) 一般病床以外の病床を含む場合は、病床区分ごとに記載すること。

4-3 重症救急患者に必要な検査、治療を行うために必要な診療施設の概要

施設名	床面積	設 備 概 要	24時間使用の可否
救急室	283.59㎡	(主な設備) 除細動器、生体モニタ心電計、 人工呼吸器、エコー、電気メス	使用可
放射線施設	1077.5㎡	(主な設備) MRI、全身用CT、血管造影装置、 X線透視装置	使用可
集中治療室	407.26㎡	(主な設備) 除細動器、人工呼吸器、 生体モニタ解析付心電計、エコー	使用可
手術室	1299.06㎡	(主な設備) BCR、手術用顕微鏡、OP台、 電気メス、人工心肺装置	使用可
検査室	630.54㎡	(主な設備) 自動生化学分析装置、自動免疫分析 装置、光学顕微鏡、自動血球分析装 置、超音波装置、血液ガス分析装置	使用可
内視鏡	401.26㎡	(主な設備) 各種内視鏡システム	使用可
機械室	416.22㎡	(主な設備) 自家発電装置、冷暖房空調機器、 換気システム	使用可

4-4 備考

救急告示病院、病院群輪番病院

(注) 特定の診療科において、重症救急患者の受入体制を確保する場合には、その旨を記載すること。

既に、救急病院等を定める省令（昭和39年厚生省令第8号）に基づき都道府県知事の救急病院の認定を受けている病院、救急医療対策の設備事業について（昭和52年7月6日付け医発第692号厚生省医務局長通知）に基づき救急医療を実施している病院にあっては、その旨を記載すること。

4-5 救急医療の提供の実績

救急用又は患者輸送自動車により搬入した救急患者の数	3,633人 (3,715人)
上記以外の救急患者の数	4,247人 (7,213人)
合 計	7,880人 (10,928人)

(注) それぞれの患者数については、前年度の延べ数を記入すること。

括弧内には、それぞれの患者数のうち、入院を要した患者数を再掲すること。

4-6 救急用又は患者輸送用自動車

救急用又は患者輸送用自動車	2台 (救急車1台、患者搬送用自動車1台)
---------------	--------------------------

5 地域医療従事者の資質の向上を図るための研修の実績

5-1 研修の内容

R5. 4	令和4年度熊本県臨床検査精度管理調査血液フォトサーベイ解析 (60名)
R5. 6	肩腱板術後のリハビリについて (22名)
R5. 10	腱板断裂について～腱板断裂の疫学・当院のプロトコルについて～ (30名)
R5. 11	糖尿病の食事療法 (30名)
	認定看護師主催医療従事者研修 (128名)
	みんなで学ぼう脳卒中～最新脳卒中治療と予防～ (82名)
R5. 12	生活習慣病と食事 (30名)
	老人ホーム職員対象「COVID-19感染対策防止」 (10名)
R6. 1	八代画像診断検討会 (11名)
R6. 3	熊本県における周産期医療体制の現状と今後の展望 (107名)

5-2 研修の実績

(1) 地域の医療従事者への実施回数	10回
(2) (1) の合計研修者数	510人

(注) 1 研修実績には、当該病院以外の地域の医療従事者が含まれるものを記入すること。

(注) 2 (2) には、前年度の研修者の実数を記入すること。

5-3 研修の体制

ア 研修プログラムの有無

① . 無

イ 研修委員会設置の有無

① . 無

ウ 研修指導者

研修指導者氏名	職 種	診療科	役職等	臨床経験数	特記事項
吉松 眞一	医師	消化器内科	部長	35年	教育責任者
江藤 健一郎	医師	血液内科	部長	33年	
本島 寛之	医師	糖尿病内分泌 内科	部長	30年	
堀野 敬	医師	外科	部長	34年	
菊川 憲志	医師	整形外科	部長	29年	
神崎 順徳	医師	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科	部長	44年	
古賀 一成	医師	脳神経外科	部長	39年	
川上 茂生	医師	泌尿器科	部長	35年	
東矢 俊光	医師	産婦人科	部長	44年	
中曽根 豊	医師	放射線科	部長	20年	
谷本 宏成	医師	麻酔科	部長	30年	
小出 俊一	医師	循環器内科	部長	29年	
田中 秀幸	医師	呼吸器内科	部長	18年	
市村 知佳	医師	皮膚科	部長	13年	

(注) 教育責任者については、特記事項欄にその旨を記載すること。

5-4 研修実施のための施設及び設備の概要

施設名	床面積	設備概要
大ホール	498.37㎡	主な設備) プロジェクター、テレビ、放送設備、音響設備、照明設備
大会議室	173.0㎡	(主な設備) プロジェクター、テレビ、放送設備、音響設備、照明設備
中会議室	75.29㎡	(主な設備) プロジェクター、テレビ、放送設備、音響設備、照明設備
小会議室	37.78㎡	(主な設備) プロジェクター、テレビ、放送設備、音響設備、照明設備
職員研修室	181.19㎡	(主な設備) プロジェクター、テレビ、放送設備、音響設備、照明設備、模擬病室
管理部門会議室	64.03㎡	(主な設備) プロジェクター、放送設備
図書室	46.4㎡	(主な設備) 図書、パソコン、プリンター、コピー機
放射線施設	1077.5㎡	(主な設備) MRI、全身用CT、血管造影装置、心臓血管造影装置、放射線治療装置、RI検査装置、結石破碎装置、X線透視装置
検査室	630.54㎡	(主な設備) 自動生化学分析装置、自動免疫分析装置、光学顕微鏡、包埋センター凍結標本作成装置、自動血球分析装置、超音波装置、輸血検査装置
内視鏡	401.26㎡	(主な装置) 各種内視鏡システム

6 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法

管理責任者の職・氏名	病院長 島田 信也
管理担当者の職・氏名	事務部長 山西 啓一郎

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約等		電子カルテ	電子カルテ内項目別
病院の管理及び運営に関する諸記録	共同利用の実績	各部署	台帳による保管
	救急医療の提供の実績	医事課	台帳による保管 (毎月保健所に報告書提出)
	地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実績	教育委員会	台帳による保管
	閲覧実績	総務企画課	台帳による保管
	紹介患者に対する医療提供及び他の病院又は診療所に対する患者紹介の実績の数を明らかにする帳簿	医療連携室	ファイルによる保管

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

7 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績

閲覧責任者の職・氏名	病院長 島田 信也
閲覧担当者の職・氏名	事務部長 山西 啓一郎
閲覧の求めに応じる場所	事務室
閲覧の手続の概要 閲覧台帳に記入	

前年度の総閲覧件数		0件
(再掲) 閲覧者別の件数	医師	0件
	歯科医師	0件
	地方公共団体	0件
	その他	0件

(注) 閲覧件数については、前年度の延べ数を記入すること。

8 医療法施行規則第9条の19第1項に規定する委員会の開催の実績

委員会の開催回数	3回
委員会における議論の概要	
令和5年度第1回熊本総合病院地域医療支援委員会（令和5年5月16日開催） ・令和5年度地域医療支援病院現状報告 ・新型コロナウイルス感染症及びワクチン接種について ・当院の増改築工事について ・委員の方からご意見・ご要望 令和5年度第2回熊本総合病院地域医療支援委員会（令和5年8月28日開催） ・令和5年度地域医療支援病院現状報告 ・新型コロナウイルス感染症及びワクチン接種について ・地域包括ケア病棟の運営状況について ・委員の方からご意見・ご要望 令和5年度第3回熊本総合病院地域医療支援委員会（令和6年2月5日開催） ・令和5年度地域医療支援病院現状報告 ・災害訓練について ・委員の方からご意見・ご要望	

（注） 委員会の開催回数及び議論の概要については、前年度のものを記載すること。

9 患者相談の実績

患者相談を行う場所	相談窓口・相談室 その他（病棟、カンファレンス室）
主として患者相談を行った者 （複数回答可）	吉松眞一（医師） 村上慶子（看護師、医療メディエーター） 和田雄一（事務員、医療メディエーター） 岡田あゆみ（事務員、医療メディエーター） 塚本五月（看護師） 川上奈央（社会福祉士）、 前田春菜（社会福祉士、医療メディエーター） 堤可美（社会福祉士）、清田奈巳代（社会福祉士） 田村千明（社会福祉士）、 久保優美（社会福祉士、医療メディエーター） 中島早苗（社会福祉士）
患者相談件数	8,565件
患者相談の概要	
・入退院支援（転院・入所・レスパイト入院・在宅サービス等の相談調整） ・各種制度利用等について ・治療内容や治療方針、治療上の疑問や副作用に関する相談 ・苦情相談 ・医療費に対する相談 ・セカンドオピニオン ・がん相談 ・医療安全 【 入院相談 】 在宅への退院や転院、施設入所など今後の退院先に関する相談を最も多く受け、相談内容に応じて病医院や施設の提案、地域の関係機関との連絡調整を行いました。その他、身寄りのない方の退院時の対応、金銭面の相談、年金、各種手帳に対する相談など、多岐にわたって相談を受け、行政等と連携を取り問題解決を図りました。 【 外来相談 】 介護保険の申請やかかりつけ医の紹介、在宅生活の悩みや不安などの相談を受け、制度の説明や病医院の提案、傾聴支援などで対応をしました。早急な対応をする場面も多く、複数の相談員で迅速な対応を心がけました。 【 がん相談 】 院内外、入院・外来を問わず、各種がん相談を受けました。治療に関すること、緩和ケアに関すること、薬に関すること、治療費に関すること、セカンドオピニオンや入院受け入れ、在宅療養、就労に関することなど内容は様々です。相談内容に応じて院内のスタッフと連携を図ったり、外部関係機関のがん相談支援センターに助言を求めたりするなどして対応しました。	

（注） 患者相談の概要については、相談内容を適切に分類し記載するとともに、相談に基づき講じた対策等があれば併せて記載すること。

また、個人が特定されないよう配慮して記載すること。

10 地域における医療の確保を図るために特に必要であるものとして都道府県知事が定めた事項

都道府県知事が定めた内容																							
ア) 医師の少ない地域を支援すること。 イ) 近接している医療機関と競合している場合は、地域医療構想調整会議における協議に基づき、医療需要に応じ、必要な医療に重点化した医療を提供すること。 ウ) 平常時からの準備も含め、新興感染症等がまん延し、又はそのおそれがある状況において感染症医療の提供を行うこと。 エ) 平常時からの準備も含め、災害時に医療を提供すること。																							
実施状況																							
ア)・医師の派遣にて診療支援を行っている。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>派遣先</th><th>診療科</th><th>頻度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>八代市立椎原診療所</td><td>内科領域</td><td>1回/隔週</td></tr> <tr> <td>水俣市立総合医療センター</td><td>病理診断科</td><td>2～3回/月</td></tr> <tr> <td>天草中央総合病院</td><td>麻酔科</td><td>1回/月</td></tr> <tr> <td>熊本総合病院附属クリニック</td><td>整形外科</td><td>1回/週</td></tr> <tr> <td>阿蘇温泉病院</td><td>耳鼻咽喉科</td><td>1回/週</td></tr> <tr> <td>桜十字八代病院</td><td>外科</td><td>1回/週</td></tr> </tbody> </table> ・附属クリニックの運営により、地域医療の支援を行っている。 イ)・急性期医療の提供・・・熊本県がん診療連携拠点病院として地域の医療機関と連携し、質の高い救急医療を提供している。 ・救急医療の提供・・・二次救急医療機関として、24時間365日対応可能な体制を整えている。 ・周産期医療の提供・・・熊本大学や他の医療機関との連携による県南地区での周産期医療の拠点を旨す。(令和5年度より産科を再開) ウ)・第2種感染症指定医療機関として感染症病床を4床有している。 ・地域の中核病院でもあり、感染症等の救急患者の受け入れにおいて、24時間受け入れの体制を構築している。問題発生時には、委員会等を開催し対策を検討、適切な医療の提供を行っている。 ・今後の新興感染症等に対しても、感染拡大時には専用の病床を確保する他、非常時の医療体制の提供できるよう構築して感染症医療の提供を行う。			派遣先	診療科	頻度	八代市立椎原診療所	内科領域	1回/隔週	水俣市立総合医療センター	病理診断科	2～3回/月	天草中央総合病院	麻酔科	1回/月	熊本総合病院附属クリニック	整形外科	1回/週	阿蘇温泉病院	耳鼻咽喉科	1回/週	桜十字八代病院	外科	1回/週
派遣先	診療科	頻度																					
八代市立椎原診療所	内科領域	1回/隔週																					
水俣市立総合医療センター	病理診断科	2～3回/月																					
天草中央総合病院	麻酔科	1回/月																					
熊本総合病院附属クリニック	整形外科	1回/週																					
阿蘇温泉病院	耳鼻咽喉科	1回/週																					
桜十字八代病院	外科	1回/週																					

- エ)・平成28年熊本地震の震災による救急外来を受診した患者は141名（重症3名、中・軽症138名）、軽症のエコノミー症候群3名であった。倒壊の恐れのある病院からの入院患者に関しては、熊本市から8名、益城町近隣から8名、八代市から16名の合計32名を受け入れた。透析については、熊本市ならびに近郊から延べ87名の透析患者（うち夜間透析延べ57名）を受け入れた。
- ・最新の免震構造の施設・設備となっており、災害に対しても強く、また避難所としても活用できる構造を備えている。
 - ・救急車や災害時に使用できる自動車を複数台所持しており、またヘリポートも整備している。
- 3日間は応援物資なしに運営ができるための食料品、医薬品、器材を院内に備蓄している。
- ・令和6年3月1日に災害対策本部の設置やトリアージ等、災害時の被災者の受け入れを想定した訓練を実施したが、今後も更に柔軟な対応ができるよう継続し、病院全体で体制を整える。

1 1 その他の地域医療支援病院に求められる取組みに関する事項

(注) この項目に関する報告については、任意です。

1 1 - 1 病院の機能に関する第三者による評価

病院の機能に関する第三者による評価の有無	有 ・ 無
・ 評価を行った機関名 ・ 評価を受けた時期	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

1 1 - 2 果たしている役割に関する情報発信

果たしている役割に関する情報発信の有無	有 ・ 無
・ 情報発信の方法 広報誌、ホームページ ・ 情報発信内容等の概要	

1 1 - 3 退院調整部門

退院調整部門の有無	有 ・ 無
・ 退院調整部門の概要 地域包括ケア推進室長を中心に多職種で退院調整に取り組んでいる。 8月入退院支援センター開設。入退院支援システムの構築。	

1 1 - 4 地域連携を促進するための取組み

地域連携クリティカルパスの策定の有無	有 ・ 無
・ 策定した地域連携クリティカルパスの種類及びその内容 糖尿病、がん（私のカルテ） ・ 地域連携クリティカルパスを普及させるための取組み 糖尿病センター、がん相談支援センターで普及の取り組みを実施 地域包括ケア研修会にてがん相談支援センターの周知（Web研修）の実施	

共同利用の実績

	手術	ホルター 心電図	CT	MRI	病床	
					延数	利用率
R5年4月	0	5	62	62	89	21.19%
R5年5月	0	3	61	42	178	41.01%
R5年6月	0	1	59	63	173	41.19%
R5年7月	0	3	68	55	135	31.11%
R5年8月	0	2	64	75	180	41.47%
R5年9月	0	5	76	56	97	23.10%
R5年10月	0	2	60	77	136	31.34%
R5年11月	0	1	47	67	168	40.00%
R5年12月	0	3	44	50	135	31.11%
R6年1月	0	1	59	41	130	29.95%
R6年2月	0	1	40	48	132	32.51%
R6年3月	0	1	63	58	133	30.65%
計	0	28	703	694	1686	32.99%

※全て開設者と直接関係のない医療機関

共同利用の医療機器一覧

医 療 機 器 名
64 列・320 列 C T 撮影装置
3 テスラ・1.5 テスラ M R I 撮影装置
心臓血管造影撮影装置（心カテ）
血管造影撮影装置
乳房 X 線撮影装置（マンモグラフィー）
S P E C T・C T 装置（R I）
放射線治療装置（ライナック）
骨密度測定装置（D E X A）
内視鏡システム
鼻内視鏡システム（I P C）
神経刺激モニタ装置（N I M）
頭頸部手術用顕微鏡
無散瞳眼底カメラファイリングシステム
心電図装置
ホルター心電図解析装置
心臓用超音波診断装置（心エコー）
汎用超音波診断装置
脳波計
肺機能検査システム
無散瞳眼底カメラファイルシステム
救急車による患者搬送

独立行政法人地域医療機能推進機構熊本総合病院登録医制度実施要綱

(目的)

第1条 独立行政法人地域医療機能推進機構熊本総合病院（以下「当院」という）は、登録医制度運営委員会が定める登録医制度実施要綱に基づき、患者中心の一貫性のある医療並びに地域医師会会員の生涯研修を目的として、病院の一部を開放する。それによって、病診（病）間の連携と機能分担の推進を図り、医療の効率化及びその向上に寄与し、地域基幹病院としてさらに充実した医療の提供を行うことを目的とする。

(登録医)

第2条 当院の利用を希望する医師は、登録医制度運営委員会の承認を得て登録する（以下「登録医」という。）登録期間は1年とする。

- (1) 登録更新は、毎年4月とし、以後登録医からの申し出がなければ自動的に更新する。
- (2) 登録医制度運営委員会は、登録医が不適当と判断された時は、その登録を取り消すことができる。

(身分)

第3条 登録医は、当院の組織に属していないが、部長又は主治医の了解のもとに、当院職員に対して協力を要請することができる。

(責務)

第4条 登録医は、当院の諸規則・規定を尊重すると共に、所定の名札を付けるものとする。

(紹介・入院)

第5条 患者紹介・外来受診・入院手順は、慣行通りとし、入院の要否の決定は各科診療科の判断によるものとする。

(診察および共同利用)

第6条 登録医は、部長又は主治医の了解のもとに、紹介した入院患者を診察し、治療や検査又は指導等に参加することができる。ただし、次の項目を遵守するものとする。

- (1) 診察のために来院するときは、当院が準備する名札をつけること。
- (2) 診察を行うときは、病棟での慣行、取り決め等に十分留意し、入院患者の治療方針等について、担当医と十分話し合うこと。
- (3) 登録医は、診療録閲覧の権限のみがあり、診療録に記載するときは、診療

記録用紙を用い、必ずサインをすること。

- (4) 登録医は、記載した診療記録をコピーし、自院に持ち帰り診療録として保管する。
- (5) 登録医は、建物、設備、医療機器の一部を利用する場合は、事前に当院に申し出ておく。

(退院)

第7条 患者の退院に際し、担当医は必要に応じ登録医と退院後の治療方針等について協議する。また、担当医は、入院経過及び検査結果について登録医に報告する。

2. 当該患者の治療に関する看護に関しても、看護職間の相互連携により、継続した看護の発展に努める。

(研究会・研修会等)

第8条 登録医は、当院で行う研究会・研修会等に参加することができる。当院は、登録医の出席しやすい研究会・研修会を開催するものとする。

2. 登録医に所属する看護職員等についても、研修会等の機会を設けるなど、地域の医療の質を高めるための便宜を提供する。

3. 登録医に所属する事務職員等についても、保険実務請求等の研修の機会を設けるなど、事務の質を高めるための便宜を提供する。

(支援)

第9条 当院は登録医の院内活動を支援し、便宜を図らなければならない。

(実施細目)

第10条 各科診療科の現状に即した実施細目を作成することができる。その際、登録医制度運営委員会の意見を踏まえ、院長の承認を得る必要がある。また、変更する場合も同様である。

(登録医制度運営委員会)

第11条 要綱の改正や管理運営に関するすべての事項については、院内に設置する登録医制度運営委員会で協議し、院長に答申し承認を得なければならない。

(随則)

この要綱は、平成25年12月1日から施行する。

この要綱は、平成26年4月1日から施行する。

	医療機関名	登録医
1	旭中央通りクリニック	片岡 裕文
2	荒木医院	荒木 幹太
3	あらき整形外科医院	荒木 崇一
4	荒木皮ふ科医院	荒木 嘉浩
5	ありの内科呼吸器科	有野 晃司
6	泉内科医院	泉 純治
7	泉内科医院	泉 和寛
8	市村皮膚科医院	市村 信一
9	井上医院	井上 克彦
10	うえの内科・胃腸内科	上野 直嗣
11	上野耳鼻咽喉科医院	上野 博史
12	大塚内科クリニック	大塚 隆興
13	大手町クリニック	池崎 定好
14	大平眼科医院	大平 和彦
15	岡崎皮ふ科医院	岡崎 美知治
16	岡村医院	岡村 健二
17	尾田内科医院	尾田 幸太郎
18	片岡レディースクリニック	片岡 明生
19	桑原産婦人科医院	桑原 三郎
20	高田病院	荒木 順介
21	小沢内科医院	小沢 隆昭
22	後藤胃腸科肛門科クリニック	後藤 達哉
23	せきがみ内科・糖尿病内科	関上 泰二
24	礪本胃腸科外科医院	礪本 信男
25	高田胃腸内科・内科	高田 信勝
26	高橋医院	高橋 繁實
27	ちりふ内科	池鯉鮒 治明
28	浜田呼吸器科内科クリニック	濱田 隆博
29	春野医院	春野 尊
30	峯苔医院	峯苔 貴明
31	峯苔医院（ひかり峯苔クリニック）	峯苔 ゆき子
32	福田クリニック産婦人科内科	福田 宰
33	ふくろ町クリニック	切通 伸介
34	平成病院	本田 荘介
35	放射線科・内科まきたクリニック	蒔田 修
36	前田医院	前田 文博
37	前田内科医院	前田 洋典
38	増田内科・胃腸内科	増田 陽二
39	松岡内科クリニック	松岡 昇
40	右田クリニック	右田 敦
41	保元内科クリニック	保元 徳宏
42	八代市医師会立病院	大野 訓正

43	医療法人明朋会 八代ハートクリニック	高嶋 英夫
44	わたなべ内科クリニック	渡辺 栄一郎
45	ひかわ医院	岡本 健宏
46	八代北部地域医療センター	吉田 光弘
47	八代北部地域医療センター	田中 真一郎
48	八代北部地域医療センター	田中 朋子
49	八代北部地域医療センター	門久 貴史
50	くまもと芦北療育医療センター	木村 昭彦
51	溝部病院	松永 悦雄
52	溝部病院	溝部 道生
53	泉胃腸科外科医院	泉 正治
54	きむら医院	木村 茂
55	土屋医院	土屋 立昭
56	中村医院	中村 亮斉
57	まつばせ児嶋クリニック	児嶋 真治
58	安武眼科医院	安武 博樹
59	てらさきクリニック	寺崎 博
60	深水医院	深水 良
61	小林脳神経外科	小林 清市
62	三浦整形外科医院	三浦 広典
63	吉田病院	村上 良慈
64	吉村皮膚科医院	吉村 浩二
65	上球磨クリニック	谷川 廣一
66	横山医院	横山 武春
67	宮島医院	宮島 伸治
68	本田クリニック	本田 和
69	むらたクリニック	村田 和哉
70	久原内科・消化器科クリニック	久原 硬
71	有田大津眼科	有田 達生
72	緒方内科医院	緒方 博文
73	小川中央クリニック	鎌田 和久
74	八代更生病院	阿部 恭久
75	酒瀬川内科	酒瀬川 裕
76	ひらきクリニック	開 俊郎
77	ひらきクリニック	大柿 悟
78	ひらきクリニック	開 信郎
79	持永外科内科胃腸科医院	持永 瑞穂
80	高田内科医院	高田 大起
81	愛甲産婦人科・麻酔科医院	愛甲 啓
82	医療法人 正仁会 みずほ病院	北島 茂
83	医療機関名	宛名
84	保田医院	保田紘一郎

85	江藤外科胃腸科医院	江藤和美
86	江藤外科胃腸科医院	江藤慎一郎
87	橋本医院	橋本 晏理
88	桜十字八代リハビリテーション病院	西 徹
89	たかみや医院	高宮 登美
90	桜十字八代病院	酒本 喜與志
91	球磨村診療所	橋口治
92	桑原医院	桑原 奥
93	たかの呼吸器科内科クリニック	高野 義久
94	外山胃腸病院	岐部 明廣
95	田淵内科クリニック	田淵 昭典
96	光永医院	光永憲央
97	芦北クリニック	溝部 典生
98	Y's SKINCARE CLINIC	山尾 依子

※すべて地域医療支援病院開設者と経営上関係のない医療機関